

健康通信

肥満の最新医療について



糖尿病・内分泌内科部長医師

落合 啓史

人類の歴史は飢餓との戦い

20万年の人類の歴史は飢餓との戦いでした。特に、7万年前の気候変動による食料危機で、世界の人口は1万人ほどに減少したとされます(現在ではライオンが3万頭ほどで絶滅危惧種に指定されています)。飢餓との戦いの中では、遺伝的・体質的に効率よく栄養を蓄えられるものが子孫を残してきました。しかし、現代の飽食の時代においては、この能力が肥満や、それに伴う病気をきたす要因となっています。

肥満は「ミネ倒し」のように病気を起します

肥満により生活習慣病(糖尿病や高血圧症・脂質異常症)などが起こり、

その合併症として失明や透析、足壊疽、心筋梗塞、脳卒中、認知症、肝硬変などが生じます。特に、BMI(肥満の程度を示す指標)が35以上の高度の肥満症は230以上の合併症に關与するとされます。

肥満の原因の新しい知見について

従来、肥満の原因として個人の食習慣や運動習慣が強調されてきました。しかし、近年では高度の肥満症の原因として、遺伝的・体質的なものによる影響が明らかになっています。例えば、同じカロリーのある食事を摂取しても、消化管での吸収率は異なります。また、吸収された栄養素が脂肪などのエネルギー

ギーとして蓄えられる割合も個人で異なります。さらに、消費カロリーの70%を占める基礎代謝もさまざまです。そのため、同じカロリーの食事をとり、同じ量の運動をしても、減量する方もいれば体重が増加する方もみえます。

肥満外科手術について

世界では70年ほど前から肥満外科手術が実施されてきました。保険適応で実施が可能なものは、腹腔鏡を使用し、胃を部分的に切除するものです。手術により胃の容量がバナナ1本分程度に減少し、少量の食事で満腹感を得ることができるようになります。また、グレリンというホルモン(胃の抽出された部位を中心に分泌されます)の血中濃度が減少することで食欲が抑えられることが示されています。

肥満外科手術の効果

手術や、術後の食事・運動療法により体重の20%以上の減量効果が期待できます。減量に伴う糖尿病などの生活習慣病の改善や、血管合併症のリスクの軽減についてのデータが蓄積されつつあります。なお、膝関節症や腰椎症の改善、睡眠時無呼吸症候群の軽快、肝障害の改善・月経異常の軽快なども期待できます。さらに、術後に投薬を減らせる可能性があり、インスリン注

射を中止した場合は年間約8万円の医療費の軽減が試算されます。

肥満外科手術を実施した患者様の声

手術を希望された動機としては「睡眠時無呼吸症候群で起床時に頭痛があつて日中は眠いです。血圧も高いです。いろいろな体調不良が太っていることから来ていると考えています。ダイエットは何回もしていますが、また戻ってしまいます。(妻)病気になるないためにも減量してほしいです(30代男性)」とおっしゃられた方もいらっしゃいました。術後に「ちよつとの量で満腹になるので、食事がとれなくてストレスになることはないです。ストレスの解消で食べることが減りました(40代女性)」とおっしゃられた方もいらっしゃいます。

当院の肥満外科手術の適応について

保険適応を満たし、術後に十分な食事・運動療法が実行できる可能性が高く、周術期の合併症リスクが高くない方を中心に手術を実施しています。当院のホームページには、より詳細な記載があります。ご興味がある方は、ぜひご覧ください。

